



2



3

1.大麻のまちづくりを考えるワークショップの様子。大麻の良いところや改善すべきところなどまちづくりについて活発に議論しあう。2.大麻・文京台夏まつりで活躍する学生ボランティア。3.大麻銀座商店街にオープンした元気プラザ'sの子育てサロンの様子。



# 江別の今と向き合う

# 大麻団地 50年

(3)

造成から50年を迎える大麻団地。憧れのニュータウンは、開発当時の建築物の老朽化と高齢化が問題になっていきます。この状況を打開しようと、産学官民が協力して大麻団地の優位性を活用したさまざまな取り組みを進めています。再生への鍵は「高齢者の住み替え」と「子育て世帯の移住促進」です。

## プロジェクト始動

平成19年の大麻団地まちづくり指針策定から数年、平成25年9月には国の補助を受け、指針実現に向けた具体的な施策を進めるための組織「江別市安心生活まちづくり推進事業運営協議会」が充足。補助を受ける3年間で、再活性化への基礎作りを進め、それらの取り組みを運営・実行していく組織の設立を目指しています。

## 住み替えを支援

協議会の事業で大麻団地の住み替えを希望する高齢者な

どを対象とした「大麻住まい相談」があります。住み替えとは、高齢者などが使わなくなった家屋を貸すなどして、広い住居が必要な子育て世代などに利用してもらうこと。高齢者は近くの施設や集合住宅などに移住し、福祉サービスを手厚く受けたり、冬の困難な除排雪から解放されたりというメリットが見込まれます。

現在実施している住まい相談では、相談内容をもとに担当者が適切な専門家を派遣し、相談に応じるといっても、昨年度は「住宅を売りたいがどうしたらいいかわからない」といった相談が寄せられました。中古住宅の購買、全面改修に結びついた例もあり、今後も活動を継続していく見通しです。また、今年から対象を市外にも拡大。貸す側と、利用する側の双方の悩みや不安にこたえます。

他にも、参加者のまちづくり意欲を高めるためのワークショップや講演会、ニュースレターの発行など活動を活性化

## 大麻に移住した

岩本 民江 (いわもと たみえ) さん



8年前に子ども3人、5人家族で大麻沢町に引っ越してきました。札幌で社宅住まいだったので一戸建てに住みたくて。大麻団地は自然も豊かだし、静かで住みやすいと感じています。お年寄りが多いので、子どもたちに優しくしてくれて嬉しいですね。最近は同じ世代の人も増えてきていますよ。

させています。

平成26年度は、高齢者施設などの誘致のほか、ワークショップで提案があった「交流農園」、経験豊富な高齢者らによる「寺子屋活動」、などの実施に向けた支援を進めます。

## 住民と学生の相乗効果

高齢化率30%と言われる大麻団地ですが、大麻地区全体で見ると、3つの大学が集約しているため、若者の割合は高くなっています。にぎわい

# 大麻団地は再生できる



札幌学院大学

太田 清澄 (きよずみ) 教授

社会情報学部教授。研究分野は社会システム工学、都市計画など。大麻団地まちづくり指針策定の中心的存在。江別市安心生活まちづくり推進事業運営協議会会長。

大麻団地は非常に潜在能力が高い。札幌都心に電車で約12分の距離で、緑が豊か、幼稚園や小学校もあり、子育てにはもってこいの場所。再生できないはずがない。

大麻団地は3つの特徴があります。1つめは幼稚園を核に、周りに公園や住居を配置し地域コミュニティを形成するという画期的な計画理論をもとに形成されたこと。2つめは国道12号からの直道を回避し、さらに多くの袋小路を作ったことで通過交通(団地内への単なる通り抜け目的の通行)を徹底的に排除したこと。3つめは原生林のなごりである自然地形(沢)を残し、既存の植生を生かしたこと。これらは居住に快適な環境を作り、理想的なニュータウンの形でしたし、子育てに最適な環境は今も変わりません。そのため、大麻団地再生のキーワードは「子育て世代の呼びこみ」と「住み替え」です。その仕掛けが不可欠です。

一人住まいの高齢者は、一見便利に思える札幌都心部に移り住みますが、それは得策とは言えません。札幌都心に移住しても、新たに人間関係を作っていくのは難しく、孤立してしまいます。そうした高齢者が移り住むための、集合住宅が大麻駅周辺に必要なだと考えています。

一人暮らしが難しくなってきた高齢者は、住居を売却するのではなく、子育て世帯に貸します。集合住宅には同じ地域に住んでいた住民が集まり、話を共有することができますし、除雪などの苦悩から解放されます。駅も近いので病院などにも通いやすい。団地内の戸建て住宅には、広いスペースが必要な子育て世代が住み、にぎわいが出てくるでしょう。

ただ住み替えには貸し手と借り手の2者が交渉するのでトラブルが発生しやすくなります。それを防止するために住み替えなどの支援に、産学官民が協力して組織を作り、運営する必要があります。信頼できる組織が運営するなら、トラブルも少なく住み替えが促進されます。結果としてリフォームなどで地元企業も潤います。そういう仕組み作りが必須です。

まちづくり指針には、このような具体的な手順が示されていたのですが、策定して3年経たっても動きがありませんでした。平成25年に国の補助を受け、協議会ができやっと、少し動き出しました。理想のモデル通りにいけば、大麻の未来は明るいと感じています。

ただ課題としては、まちづくりに関心のある住民がまだ少ないこと。住民一人ひとりが個人の視点でなく、まち全体を見る地域人として課題を受け止め、まちづくりに積極的に関わっていく必要があると考えています。

の創出には、どれだけ学生を地域に巻き込み、呼び込めるかも重要と言えます。実際にお祭りなどには、学生ボランティアが活躍しています。大麻地区自治連合会連絡協議会の佐藤功会長は「学生がいなければ祭りは成り立たない。若い力は大麻の発展に必要不可欠。」と話します。学生にとっても地域の人々との関わりは貴重な社会経験となっています。昨年大麻・

文京台夏まつり学生ボランティアのリーダー北翔大学の藤崎俊介さんは「サークル活動で地域の人たちにも支えられているから、恩返しをしたい。各世代のいろんな人が連携・協力していることが分かりとても勉強になりました。」と話します。大学の存在を活かし、学生を巻き込んで地域全体で育てていくことは住民と学生双方にとって良い相乗効果となっています。

## 商店街から広がる輪

大麻銀座商店街にはシルバー人材センターが運営する元氣プラザ<sup>スズ</sup>が平成25年度にオープンしました。施設は、誰でも自由に使える地域の空間。特に子育て世代が子どもを遊ばせながら経験豊富な高齢者に育児相談ができるスペースも兼ね揃えています。「誰でも気軽に立ち寄って」と利用を呼びかけています。

他にも商店街には空き店舗にNPO法人が入るなど、地域の活性化の拠点を目指した活動が進んでいます。大麻団地50周年を記念し、3回の連載で団地の過去・現在・未来を取り上げました。高齢化社会に臨む私たちにとって、大麻団地再生への挑戦は明るい未来に向かうための試金石でもあります。

●**無料相談と講演会の案内**

●**大麻住まい相談**  
大麻地区の住まいや住み替えなどについて、不動産・建築・福祉などの専門家が個別に相談を受けます(無料・相談希望日の前の週末までに要予約)。  
日時/日程調整。会場/市役所大麻出張所。申込・詳細 NPO法人えべつ協働ねつとわーく ☎374・1460(土日祝日除く) ※12月まで実施します。

●**築30年の我が家 これから先の住まい方・暮らし方**  
住み慣れた我が家も年数が経ち、終の棲家になりたい、譲りたい・貸したいなど、これからの人生設計を考えたとき、さまざまな選択肢があります。住まいの維持・補修や世帯構成・身体状況の変化に対応したリフォーム、自助具を使った暮らしを快適にする工夫などの事例や留意点をお話しします(無料・申込不要・直接会場へ)。  
日時/8月22日(金)14時~16時。  
会場/大麻東地区センター大会議室(大麻東町13・11)。  
対象/どなたでも参加可能。  
講師/一級建築士事務所「自然(ね)主宰」(一財)北海道建築指導センター住宅相談員 東道尾(ひがし)みちお氏

●**詳細** 政策推進課住環境活性化・公共交通担当 ☎381・1295